

## 社会教育士養成課程のご案内

学ぶことの楽しさや面白さを一緒に見つけませんか？～社会教育士(社会教育主事)養成課程のご案内～

皆さん、こんにちは。岐阜大学内にある地域協学センター教員の後藤・益川・二村です。今回、「社会教育士(社会教育主事任用資格)」という資格・称号が取れる「社会教育士(社会教育主事)養成課程」(以下、「養成課程」)の履修をご案内したく、メッセージをお送りしました。

皆さんは、教育や学習と聞くと学校を思い浮かべるとと思いますが、学校以外の場でも教育や学習は行われています。施設でいうと、公民館や生涯学習センター、図書館、博物館といった施設、団体でいえば NPO・ボランティア団体、企業、協同組合、子ども会などがあり、様々な背景を持つ人々が集い、生き生きと、楽しく学んでいます。また、日常生活上の課題や居住する地域の課題を解決するために一生懸命に学んでいます。このような学校以外の地域社会における教育を「社会教育」といい、加えて、個人がいつでもどこでも学ぶことができるという「生涯学習」と呼ばれる考え方もあります。これらの「社会教育」「生涯学習」の現場で、様々な人や組織同士をつなぎ、人々の学びを支援する専門的な資格・称号として「社会教育士(社会教育主事任用資格)」があり、この資格・称号は全共開講の指定科目 24 単位を取ると取得することができます(2024 年度版全共履修案内【[https://www1.gifu-u.ac.jp/~kyoyo/10gaidans/1\\_risyu-annai2024.pdf](https://www1.gifu-u.ac.jp/~kyoyo/10gaidans/1_risyu-annai2024.pdf)】の科目一覧(pp. 118-119)を参照。文部科学省の「社会教育士ウェブサイト」も参照)。

この資格・称号は、社会教育法といった国の法律に基づく公的な資格・称号で、履歴書などに記入することができます。誰でも養成課程を受講することができます。今後地域との関係づくりがますます重要となる学校教員を目指している方、企業や行政の人材育成や就職後のご自身の成長に関心のある方、地域づくりやまちづくりに関心のある方におすすめしています。特に、教員を目指される方については、地域住民の意見を学校運営に反映させるための仕組みである「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」、地域の多様な主体が協力して子どもたちの学びや成長を支える「地域学校協働活動」、学校の授業の内容として地域の魅力や課題、伝統・文化の積極的な取り入れや「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」への取り組みが学校教育において既に展開されていることに加えて、今後の学校教育では、子どもの体験活動(自然体験や職業体験等)や地域、学校、企業等の連携による教育活動の展開が重視される方向にあります。このような学校における教育活動に欠かすことのできないものをこの養成課程の授業で学ぶことができます。

さらに、岐阜大学が所在する岐阜県の教育に焦点を当てると、県の教育振興基本計画(県教育ビジョン)では、「地域社会人の育成」及び「ふるさと教育」を県の教育の基軸としていることから地域と学校の連携が求められており、それを推進する教師の役割は大きく、社

会教育士(社会教育主事任用資格)の資格・称号は岐阜県の教員になったときにも役立つものです。

養成課程を構成する授業の内容は、資格・称号保有者には実践的な能力が求められていることを踏まえて、座学以外に、グループワークやフィールドワークの機会を多く設けています。この養成課程で学んだことは、就職活動や各種の試験などにおいて、将来仕事に活用できる知識や技能を持っているとアピールする際にも役立つものと思われます。

また、養成課程科目の特徴の一つとして、学外の講師や企業と連携した授業があります。例えば、「教育社会システム論(教育社会学)」(前期集中講義)では、岐阜県内の企業・団体と連携して、企業・団体の社員・スタッフと協力・交流しながら、ご自身の今後のキャリアを考えることにつながるような地域の課題の発見と解決策の提案・プレゼンテーションを行います。「学習者の特性と支援方法」(前期集中講義)では羽島市や岐阜市近郊の小学生を対象とした講座(学習プログラム)を企画・立案し実行するところまで体験することができます。

関心のある方は、履修案内を参照の上、ぜひ指定科目の履修登録をお願いします。履修の相談については、地域協学センター養成課程担当教員の後藤(goto.seiichi.e1@f.gifu-u.ac.jp)・益川(masukawa.koichi.w3@f.gifu-u.ac.jp)・二村(futamura.rei.c7@f.gifu-u.ac.jp)までお気軽にお問い合わせください(迷惑メール対策もあり、可能な限り大学発行のメールアドレスで問い合わせてください。メールには、学籍番号、学部学年、名前を必ず記載のこと)。養成課程科目の授業時に直接上記教員に相談していただいてもかまいません。よろしく願いいたします。